

もしかしたら人間も
土から生まれてきた？

「土からは、何でもできる!？」
何当たり前のこと言ってるの！
ですよ。実際、農家であれば何
でも作れるわけです。

僕がこのことに気づいた時は僕な
りにとっても新鮮だったんです。世
中のものはすべて土から生まれてい
るんだあ……と。もちろん、お米も
ヤサイも果物も、そしてこのアッ
ルのパソコンも、キーボードもペッ
トボトルも着ている綿のTシャツも
ポリエステル製のTシャツも車も
トラクターも、元を辿れば土という

思いました。

これってとてもスゴイことですよ
ね。なんでも作れる可能性をもっ
ている。これこそが農家の最大のメ
リットなんじゃないですか。

鹿嶋パラダイスは「本当に美味し
くて、真に安全で、健康にも良く
環境にも負荷をかけない、全てそん
なものに囲まれた生活って幸せ！」
というものをパラダイスと定義して
いるんですが、今回はそのパラダイ
スプロジェクトの一環、「衣」のプ
ロジェクトについて書かせていた
きます。

そもそもこのプロジェクトは、
「45rpm」というアパレルブラン

住めば都

ことです。

「素材はすべて土から生まれてきて
いる、その土と共に生きている、そ
の土をフィールドとして商売をして
いる農家って何でも作れるインフラ
を持っているってことなんだ」とも

ド（本社は東京都港区南青山。国内
に50店舗、海外11店舗を展開）の社
員さんが、うちに遊びに来られたの
が始まりです。僕自身は、もともと
農業の服はダサイと言って農業外の
人にとやかく言われたり、ただ派手

でシャレた感じのデザインをされた
りするのには、とても嫌悪感を抱いて
いたということがありました。それ
ならば、農業者にとって一番カッ
コイ農作業着って何なのかを考えた
んです。農家にしかできないこと、

第2回

農業者にとって一番カッコイイ 農作業着とは？

農業経営者の特権、それは美味しい食材に確実にありつけることではないか。

だが、普段は案外見逃されがちなのことに気付けば、

もっと農業が楽しくなるかもしれない——。

農業界きっての美食家!？ 鹿嶋パラダイス・唐澤秀が語る、

農業と食の可能性とは。

農家であるからこそできること、それって自分で素材をつくれるってことじゃないですか。だったら綿花作って野良着つくつたらめっちゃくちゃカッコイイじゃないかと。

超高級ブランドのブ○ダの

Tシャツ着て作業するよりも、自分で綿花作って藍で染めてそれ着て農業してるヤツのほうが何百万倍もカッコイイ。

でも、綿花作れてもそれを摘んで、種とつて、紡いで、織つて、型紙とつて、縫製して……って考えたら最低限それなりの道具が必要だし、それを置くスペース、それをやる時間を、技術、考えただけで絶望的な気持ちになつてきます。

国産綿×ファッションブランドで世界を席捲！

で、僕がそういう時にいつも利用するのが「コラボレーション」つてやつです。ご存知のように日本ってものすごい加工技術がある国なんです。だから綿花加工以外にもいろんな加工技術を持ったところっていっぱいあるんです。「自分でできないことは誰かに頼む」。これ、基本ですよ。今回はご縁もあり、45rpmさんと意気投合して綿花プロ

耕せば楽園

ジャケットを始めましたが、実はこのコラボレーションのうまみはまだ他にあるんです。

「45rpm」というブランド価値も一緒にコラボできるということです。(45rpmさんのTシャツは大体1万円くらい↑減多に買えません)が、これがデカイ。例えば将来的に販売する時も「農家がつくったTシャツ」として直売所で売ると、45rpmのロゴを付けて百貨店の店舗で販売するのでは同じ素材であつても当然価値が天と地ほど違つ

てきます。

鹿嶋パラダイスTシャツプロジェクトも今年で4年になります。やつと今年(おそらく)世界初無肥料無農薬綿花でつくったTシャツができあがります。そして45rpmのニューヨーク店にてAll Natural All Made in Japan T-shirtとして1万ドルで販売しよう!! なんて話もでてきます。

自分の綿花野良着を着て作業できる日も近いかな。ワクワクするなあ、ホント。



唐沢 秀

からさわ・しゅう●1976年静岡県浜松市生まれ。明治大学農学部卒業後、1年間の就職浪人を経て2000年(有)農業生産法人茨城白菜栽培組合入社。ハクサイの生産から出荷までのマネジメント業務全般に携わる。08年同社を退社し、独立。屋号を「鹿嶋パラダイス」とする。全品目において無農薬、無肥料の自然栽培を行なっている。水田1.2ha、ハウス10a、露地5ha。今春には鹿嶋参道に直営飲食店「楽田家」をオープン。

<http://kashima-paradise.com/>